

秋田風俗 春の版画集 其一

こま

作成年代 昭和15年(1941)

寸法 14.8×9.0cm



この作品が作成された時代、独楽(こま)は子どもの遊びとして流行していました。この作品に描かれているのは、勝負用の独楽だと考えられます。相手の独楽に衝突させて弾き出したり、それを止めたりして勝負をします。

バツケヤ

作成年代 昭和15年(1941)
寸法 14.8×9.0cm



バツケヤは、フキノトウを指す秋田の方言です。特有の香りとはろ苦さがあり、食用として味噌で和えたりするなどされます。雪国の人々はフキノトウを見つけると、春の訪れを感じて喜んでいました。

おひなさん

作成年代 昭和15年(1941)
寸法 14.8×9.1cm



屋外で女性が人形を並べているため、雛市の人形売りと考えられます。秋田には八橋(やばせ)土人形の産地があり、男子が生まれると天神を、女子には雛人形を買って祝いました。犬の土人形には子孫繁栄の願いが込められています。

彼岸花

作成年代 昭和15年(1941)
寸法 14.8×9.0cm



この作品に描かれている彼岸花は、竹の枝に彩りのある造花をつけたものです。花が咲いていない春先に行われる祖先崇拝の仏事に、華やかさを加えるため、このような彼岸花を作るようになったとされています。

菖蒲

作成年代 昭和15年(1941)
寸法 14.8×9.0cm



この作品では、家の軒先に菖蒲(しょうぶ)を差している場面が描かれています。これは端午の節句に行われる風習で、魔除けの意味を持っています。菖蒲が魔除けの役割を果たすのは、葉が剣型をしており、香りが邪気を払うと考えられていたからです。